

# 多摩市における歯科口腔保健の推進の方向性について

## 1 歯の健康と全身の健康との関係

口は「食べること」や「会話をしてコミュニケーションをとること」などの役割を持っているため、むし歯や歯周病によって多くの歯を失うと生活や社会生活等に支障をきたし、特に歯周病は、糖尿病や心疾患、脳梗塞、早産・低体重児出産など、様々な全身疾患との関連がある。また、高齢になると口腔機能が低下するため、低栄養や誤嚥性肺炎になるリスクも高まる。このように、全身の健康と密接な関係がある歯と口の健康は、健やかで幸せに生きるための基礎となるものである。

## 2 多摩市民の歯科口腔保健の現状

- かかりつけ歯科医を持つ人 (市民アンケート調査結果より)  
3歳：39.0%、小4：82.9%、中1：70.7%、高3：57.6%、  
成人：72.5%、高齢：85.2% 障がい者：82%  
(かかりつけ歯科医で予防処置を受けている人：成人71.1%、高齢者76.1%)
- むし歯のある人  
3歳：6.4%、小4：41.2%、中1：51.4%、高3：53.1%
- 自分の歯、口の状態にほぼ満足している人  
成人：35.4%、高齢：38.6%
- フッ素入り歯磨き粉使用 成人57.8%、高齢者47.7%
- デンタルフロス、歯間ブラシ使用 成人：65.4% 高齢者：62.5%
- 歯周病と関係のある疾患等についての認知(数値は糖尿病)  
成人：43.7%、高齢：37.9%
- 口腔機能低下の相談先を知っている 高齢者：25.4%

## 4 取組の方向性

- ① 市民が生涯にわたって歯科疾患の予防並びに口腔機能の獲得、維持及び向上に自主的に取り組むことを支援
- ② ライフステージに応じた歯と口腔の特性及び多様な生活環境、社会環境等を踏まえた歯科口腔保健に係る取組を推進
- ③ 保健、医療、社会福祉、教育等の歯科口腔保健に関連する分野の施策と連携を図り、総合的な歯科口腔保健に係る取組を推進



健幸まちづくりの推進には、歯科口腔保健の推進が必要  
健康寿命の延伸・健康格差の縮小を目指す

## 3 多摩市民の歯科口腔保健の主な課題

- 《全ての世代》
  - ・かかりつけ歯科医を持つ人が都目標値に達しておらず、周知が必要
- ＜幼児期・学齢期＞
  - ・むし歯のある人が都調査よりも多く、年齢が上がるとむし歯の有病率も上がり、むし歯のある人は甘いお菓子類や飲み物を飲む頻度が高く、むし歯予防の生活や口腔ケアの知識の普及啓発が必要。また、中高生の時期からは、予防の観点から、歯周病への関心を高める必要がある。
- ＜成人期・高齢期＞
  - ・歯周病の症状が増加するも、かかりつけ医、セルフケアの取組が都に比べ低い。また、歯周病と関係のある疾患等の認知が低く周知が必要
  - また、口腔機能低下に関する相談を歯科でできることの周知が不十分。
- ＜障がい者・介護が必要な方＞
  - ・受入れ可能な歯科など情報発信の充実、家族、支援者への周知啓発

## 5 具体的な取組例

- 「いつまでもおいしく食べ、誰もが笑顔でいられるまち」を目指して
- ・歯科疾患と全身の健康への影響についての周知啓発
- ・ライフステージに応じたむし歯、歯周病予防の生活習慣の周知啓発
- ・かかりつけ歯科医を持つこと、セルフケア、コミュニティケア、プロフェッショナルケアの必要性、具体的な方法などの周知啓発
- ・口腔機能の獲得、維持や低下予防についての啓発と取組
- ・リスクの高い人への支援体制の検討
- ・歯科に関する災害時の課題の整理と対策
- ・障がい者対応歯科についての調査と周知
- ・外部有識者等で構成する会議体の設置（取組の評価と見直し）
- ・民間のノウハウを利用した取組